



長崎県印刷工業組合

長崎市出島町 10-13 (印刷会館内)

TEL 095-824-2508

発行責任者 理事長 内 田 信 吾

編 集 組織活性化委員会

E-mail nagapuri@fancy.ocn.ne.jp

URL <https://www.nagasaki-pia.org/>

印刷・発祥・長崎

2026.9 VOL. **133**



としょかん de 活版 2026 (不動技研ながさき市立図書館)

CONTENTS

第 151 回本木昌造墓参・法要	2
本木昌造伝	3
長崎県印刷工業組合・本木昌造顕彰会 理事会	5
活動報告	5
今後の予定・各支部の状況	5
青年部通信	6

9月3日は近代活版印刷の祖 本木昌造の命日です。日本印刷産業連合会では9月を「印刷の月」と定め、各種の周知・啓蒙活動を行っています。

長崎県印刷工業組合・本木昌造顕彰会では毎年墓参・法要を行っています。

第 151 回本木昌造墓参・法要

令和8年9月3日（木）大光寺にて、来賓・関連企業・組合員の約30名が参列しました。

毎熊会長挨拶

本日は本木昌造先生の第151回法要にあたりまして、ご多忙の中、多くのご来賓や、関連の方々にお越しいただき執り行うことができまして、誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

本木昌造顕彰会は1985年（昭和60年）に発足しました。

それ以前には1933年（昭和8年）に会の前身となります本木昌造頌徳会（しょうとくかい）を設立し、本木昌造先生の功績をたたえ、今日まで顕彰を行ってまいりました。

昨年は本木昌造先生の150年忌にあたり、様々な企画をさせていただきました。

本日お越しいただきました、芸術工学会の大串先生の記念講演会をはじめ、本木活字の鑄造、長崎歴史博物館での資料展示・青年部による活版印刷体験のワークショップの開催など行わせていただきました。

そして多くの方々に記念事業に多額のご寄付や、ご支援を賜りました。

改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

また、本木種字の長崎市文化財指定申請を行っておりましたが、現在検討中でございます。具体的な内容につきましては決まり次第皆様へお知らせしたいと思います。

今後も、本木昌造先生の功績を長崎、日本の文化遺産として顕彰してまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

令和8年9月3日

本木昌造顕彰会会長 毎熊一太



法要後、稲佐山観光ホテルにてお斎を開催し、冒頭、毎熊会長より本木昌造並びに平野富二の功績が紹介されました。以下「本木昌造伝」として当日配布された年表を掲載いたします。

本木昌造伝 ～世代を越えてつなぐ想い～

西暦（和暦）	出 来 事	年 齢
1824（文政7）	馬田作之助（本木昌造）誕生	
1834（天保5）	母の兄である本木昌左衛門へ養子となり阿蘭陀通詞を志す	11 歳
	本木昌造 蘭学の勉強に没頭する	
1840（天保11）	本木昌造、縫女（11歳）と結婚する	16 歳
	本木昌造 蘭学、薬品等の研究に没頭するなか、晴雨計、暗箱写真機、寒暖計などの製作も行う	
1844（弘化元）	オランダ使節コープス来崎の際、通詞を行う	21 歳
1845（弘化2）	昌造、研究の際に両足に大やけどを負い、3月程、寝たきりとなる	22 歳
1848（嘉永元）	オランダより通詞仲間と共に蘭書植字版、印刷機を買い入れる	25 歳
1851（嘉永4）	昌造、流し込み活字（2号仮名）の製作を試みる 諏訪神社寄贈	28 歳
	※長崎は1590年に日本に持ち込まれたグーテンベルグの印刷機による日本語書物の活版印刷が行われました。織田信長の時代にローマ法王に謁見の為、遣わされた天正遣欧使節団が日本長崎に帰ってきた際、豊田秀吉のバテレン追放令により長崎に戻れなくなり、島原 加津佐へ印刷機、金属活字等を持ち込み、書籍の出版や流し込み活字の製造を行っています。	
1851（嘉永4）	阿蘭陀語初歩を教える辞書「蘭和通辞」を自費にて印刷する	28 歳
1853（嘉永6）	佐賀藩オランダへ軍艦建造を依頼（ペリー来航以前より鉄製砲等製造）	
1853（嘉永6）	下田にペリー来航	
1853（嘉永6）	本木昌造 ロシア使節プチャーチン来崎の際、通詞を務める	30 歳
1853（嘉永6）	幕府からの大船建造禁止令が撤廃発令 大型船建造が始まる	
1854（安政元）	本木昌造 ロシア船ディアナ号 下田にて地震による津波で座礁、修理ができず、ロシア帆船2船の製造を手掛けることになる	
1855（安政2）	長崎海軍伝習所開設（ペリー来航の2年後）	
1855（安政2）	本木昌造 海軍伝習所の海軍伝習掛に任ぜられる（分離、窮理、測量、算術、鉦抗、製鉄などを習得） この際、勝海舟と出会い交流をもつ	32 歳
1855（安政2）	国力を高めるため海外より兵書を購入、知人に配布したことにより、その後、長崎へ戻った際、罪に問われ自宅への蟄居となる。	
1855（安政2）	榎林、品川の両名により長崎奉行所へ印刷機等を渡し、奉行所内に印刷所を開設	
1855（安政2）	勝海舟 本木の元へ度々と蘭語、造船のことで相談に訪れる	
1855（安政2）	本木昌造、土佐藩山内容堂の依頼により小型蒸気汽船のひな型を献上	
1855（安政2）	永井玄蕃頭尚志（海軍伝習所総取締役）オランダ海軍中佐ファビウスへ製鉄所建設を独断で委託	
1857（安政4）	カッテンディーケ、ハルデス、ポンペらがヤッパン号（後の咸臨丸）で長崎へ	
1857（安政4）	開国派 本木昌造と思われ、攘夷派により暗殺されそうになる	
1857（安政4）	飽の浦に長崎製鉄所起工（ペリー来航の4年後になる）	
1858（安政5）	妻 縫（31歳）、長男 昌太郎（6歳）死去	
1859（安政6）	海軍伝習所中止の示達（開設4年で中止）	
1859（安政6）	佐賀藩オランダより購入の機械設備類を幕府へ献納申し出（長崎製鉄所の設備補充名目）	
1859（安政6）	勝海舟、江戸へ戻る	
1860（万延元）	ポーハタン号・咸臨丸アメリカへ航海	
1860（万延元）	この頃艦船建造につき国内か外国依頼が大いに議論 薩摩藩 土佐藩 佐賀藩は蒸気船を独力で建造していたが 技術 財政上の問題で外国からの購入に転換していった	
1860（万延元）	本木昌造 飽の浦製鉄所御用掛に任ぜらる	37 歳
1861（文久元）	幕府 長崎奉行へ軍艦建造方の示達（機材の手配、技術指導者の招聘を長崎奉行に任す）	
1861（文久元）	長崎製鉄所1期工事完成	
1861（文久元）	機関士ハルデス オランダへ帰国（長崎製鉄所に多大の貢献）	
1861（文久元）	本木昌造 薩摩藩五代友厚の支援により製鉄所が購入した蒸気船ヴィクトリア号、チャールス号2隻を自ら船長となり運航する	38 歳
1861（文久元）	吉村富二（平野富二）本木の弟子となり共に船に乗り込む	15 歳
	これより生涯 本木昌造先生を師と仰ぎ没後、東京築地活版製造所の設立や所長に本木先生の子孫を任せるなど本木家の為に献身的に尽くす。	
1862（文久2）	幕府 多くの艦船を必要とし長崎へ軍艦製造の催促	
1863（文久3）	神戸海軍操練所を開設（勝海舟の発動）	
1863（文久3）	本木昌造 ヴィクトリア号で長崎から小倉へ 長州藩より船を奪われそうになる	40 歳
1863（文久3）	薩摩に貸し出したチャールス号 下関にて外国船と間違われ長州藩より焼き討ち沈没	
1863（文久3）	姉小路公知 暗殺	
1863（文久3）	長崎製鉄所は神戸海軍操練所の付属となる（勝海舟の失脚で解消）	
1864（文久4）	造船場用地造成にやっと着工（立神）（1865 慶応元終了）	
1864（元治元）	勝海舟 長崎製鉄所を視察（製鉄所の士気弛緩を歎ず）	
1864（元治元）	本木昌造 ヴィクトリア号で長崎から大阪、江戸と向かい長崎へ帰航行中、遠州灘で遭難 平野富二も機関士として同船八丈島に漂着	41 歳
	嵐の6日目にやっと八丈島へ53名で漂着する。当時、八丈島では天然痘が大流行しており、お礼にとヴィクトリア号の船医にてワクチン接種を行い島民にむくいた。その間に本木先生は新しい命を授かる。（地元の女性との子供を授かった。子供は後に東京築地活版製造所にて居住）	

西暦(和暦)	出 来 事	年齢
1865(元治2)	フランスと横須賀製鉄所建設の約定	
1865(元治2)	横浜製鉄所が起工	
1865(慶応元)	本木昌造 八丈島より江戸を経て長崎へ帰る	
1865(慶応元)	本木昌造「製鉄所の儀御尋に付申上候書付」を提出 (諸藩および外国艦船の造修により利益を上げるべきだが 一方製鉄所での作業意欲弛緩していると指摘)	42 歳
1865(慶応元)	長崎奉行に軍艦建造の差し止めを申し渡す(幕府は江戸周辺に製鉄所・造船所建設の動き)(長崎奉行は継続を強く要請)	
1866(慶応2)	立神軍艦打建所の建設取止めが最終決断される	
1866(慶応2)	本木昌造 小銃製作の儀に付申上候書付	
1866(慶応2)	本木昌造 製鉄所模様替の儀に付申上候書付(一)	
1866(慶応2)	本木昌造 製鉄所模様替の儀に付申上候書付(二)	43 歳
1866(慶応2)	本木昌造 製鉄所御仕法替に付製作品直段定法その他細工場規程などの儀取調べ申上候書付	
1867(慶応3)	本木昌造 製鉄所の儀に付見込申上候書付 (本木昌造による度重なる提議は 逆に考えればその頃長崎製鉄所の管理体制ははじめ作業環境が如何に末期的な症状を呈していたかとも推察される)	44 歳
1867(慶応3)	平野富二 長崎を離れ土佐藩 坂本龍馬の元へ	
1867(慶応3)	平野富二 長崎丸山にて英国人殺害「イカロス号」事件に海援隊と共に疑われ、取り調べを受ける。当時、坂本龍馬と1か月ほど寝食を共に過ごす。その後、龍馬と別れ長崎へ	21 歳
1867(慶応3)	坂本龍馬 暗殺される	
1868(慶応4)	最後の長崎奉行 河津伊豆守祐邦が 製鉄所の件は「支配定役格の本木昌造へ申し付け」たと記載し早々と長崎から退去してしまう	45 歳
1868(慶応4)	本木昌造 長崎製鉄所頭取に任命される	
1868(慶応4)	本木昌造 大阪高麗橋架け替えを請け負う	
1868(慶応4)	本木昌造 長崎大橋を架け替え 鉄橋にする工事を請け負う(くろがね橋)	45 歳
1868(慶応4)	本木昌造 大隈重信へ外国からの日本の国難を説く	
1868(慶応4)	平野富二 機関方として製鉄所に採用	22 歳
1868(慶応4)	本木昌造 アメリカの宣教師に「上海の美華書院」を聞きつけ弟子を3度に渡り送り続けたが、駄目であった。池原日南に願ひ、薩摩藩に上海から購入されていた金属活字、印刷機等を購入。研究を繰り返す。	
1868(慶応4)	崎陽雑報を発行する。(日本初の地方紙、木活字と金属活字の混在)	
1868(明治元)	小菅にソロバンドック(修船架)完成	
1868(明治元)	平野富二 小菅造船所長となる	22 歳
1869(明治2)	本木昌造 製鉄局機関伝習方教頭になる	46 歳
1869(明治2)	平野富二 製鉄所元締役助となる	23 歳
1869(明治2)	本木昌造 上海での任が終わったウィリアム・ガンプルを長崎製鉄所所属員として招聘し「活版伝習所」を唐通事会所後に開設。電胎法の習得	46 歳
1870(明治3)	新町活版所 東京事務所を設立	
1870(明治3)	本木昌造 長崎製鉄所辞す	47 歳
1870(明治3)	本木昌造 新街私塾を開設	
	本木先生は新しい日本の建設の青年を育成するためとの熱い思いで新街私塾を開設した。最初は長州藩の屋敷を購入、1年もたないうちに、いっばいになりその後、小倉藩の屋敷も購入し拡張した。塾生からは一切の月謝も取らず行った。	
1870(明治3)	平野富二 権大属を拜命(製鉄所頭取)	24 歳
1870(明治3)	新町活版所から陽 其二を送り活版所を新設し、日本で初めての日刊紙 横浜毎日新聞が刊行される。	47 歳
1870(明治3)	横浜に活版所を設立	
1870(明治3)	本木昌造 平野富二に事業を継いでもらいたいと懇願する。新街私塾や新町活版所など全てにおいてお願いする。	47 歳
1870(明治3)	薩摩藩 五代友厚に相談し大阪活版所を設立	24 歳
1870(明治3)	京都 點林堂印刷所を設立	
1871(明治4)	長崎製鉄所と小菅修船場は工部卿に移管(長崎造船所に改称)	
1871(明治4)	平野富二 製鉄所が工部卿移管に伴い免職	
1871(明治4)	平野富二 「長崎県稲佐立神郷修船場の儀に付申建候書付」提出(立神ドック経営を自分に任せてほしいという要請文)	25 歳
1872(明治5)	長崎造船所を長崎製作所と改称	
1872(明治5)	東京 小幡活版所(前東京事務所)を開設	
1872(明治5)	東京 築地活版製造所(前小幡活版所)を開設	26 歳
1872(明治5)	長崎新塾出張活版所を開設(9名で上京)	
1872(明治5)	長崎県「布告は一切活字を使用する」との達しがされる	
1875(明治8)	本木昌造(9月3日)死去	52 歳
1875(明治8)	平野富二 本木昌造の借金 五代友厚からの590円返済 その後、本木家へ毎月200円を送る	
1876(明治9)	平野富二 海軍省から石川島修船場の跡地借用し石川島平野造船所(現 株式会社IHI)を設立 報酬 平野富二4万円 本木家9万円 株金 本木家1万円とする	29 歳
	平野富二 築地活版所所長に本木昌造の子小太郎を任命し後見人となる	
1876(明治9)	本木昌造 従五位を追贈される	
1877(明治10)	長崎製作所を長崎工作分局と改称	
1883(明治16)	長崎工作分局を長崎造船局と改称	
1884(明治17)	岩崎弥太郎「長崎造船局拝借願」を工部卿へ提出	
1884(明治17)	民営の「長崎造船所発足」(郵便汽船三菱会社長 岩崎弥太郎)	
1887(明治20)	長崎造船所は三菱に払下げられ 名実ともに三菱の管轄となる	



【参考文献】

楠本寿一著「長崎製鉄所」 中公新書 発行1992年・柴田四郎「印刷文化の黎明」 日本印刷新聞社 発行1954年

本木昌造・平野富二の長崎製鉄所時代の足跡をたどるため上記出版物をもとに長崎県印刷工業組合本木昌造顕彰会の内部研修用として作成した。

長崎県印刷工業組合理事会

日時：令和8年9月3日（木）14：30～15：30

場所：長崎県印刷会館2F

議題：(1)各委員会報告

(2)青年部活動について

(3)8月末収支報告

(4)令和9年新年互礼会について

(5)令和9年度総会について

(6)全印工連・九州地区印刷協議会報告

(7)その他



本木昌造顕彰会理事会

日時：令和8年9月3日（木）15：40～16：00

場所：長崎県印刷会館2F

議題：(1)本木昌造記念事業について

(2)8月末収支報告

(3)その他

活動報告

○令和8年7月16日（木）印刷会館
九地協事務局引継ぎ 内田理事長

○令和8年7月23日（木）東京都
全日本印刷工業組合連合会 常任会
内田理事長

○令和8年7月28日（火）印刷会館
長崎市契約検査課との情報交換
内田理事長 岩永健理事

○令和8年8月12日（水）大光寺
本木昌造墓地献花

○令和8年8月25日（火）印刷会館
長崎県広報課との情報交換 内田理事長

○令和8年9月3日（木）印刷会館
工業組合・本木昌造顕彰会第3回理事会

○令和8年9月3日（木）大光寺
第151回本木昌造墓参・法要

○令和8年9月12日（土）長崎市立図書館
としょかん de 活版 2026 県工組青年部

○令和8年9月23日（水 祝）諏訪神社
諏訪神社秋分祭 毎熊会長

今後の予定

○全日本印刷工業組合連合会 常任会
日時：令和8年10月14日（水）

場所：沖縄県

○全日本印刷文化典沖縄大会・全印工連
フォーラム

日時：令和8年10月16日（金）～17日（土）

場所：沖縄県

○全日本印刷工業組合連合会 常任会
九州地区印刷協議会 理事会

日時：令和8年11月19日（木）

場所：東京都

○工業組合・本木昌造顕彰会理事会
日時：令和8年12月4日（金）

場所：印刷会館

各支部の状況

長崎支部

○令和8年6月26日（金）賀寿会
於：中華菜館福壽



○令和8年7月3日（金）納涼会
於：Attic coffee and dining

青年部通信

活版印刷体験イベント報告

としょかん de 活版 2026

開催日：2026年9月12日（土曜日）11時～15時

開催場所：不動技研ながさき市立図書館 クロスロード（1階入口付近）

主催：長崎県印刷工業組合・不動技研ながさき市立図書館（後援：本木昌造顕彰会）

参加者数：238名（子ども75名 大人163名）

1. 背景と目的

本イベントは、日本の近代活版印刷ゆかりの地で毎年開催しているもので、インクの香り漂う印刷の原点を体験してもらうことを目的とした。子どもから大人まで、だれでも自由に参加できる企画として実施した。

2. イベント内容

◇体験内容：手動印刷機を使用し、参加者が「長崎弁しおり」を自ら制作（当日先着順）。

◇その他：見て・聞いて・写真と映像で知る活版印刷の展示、クイズラリー「本木昌造とながさき」「印刷なぜなに」、ミニ図書館「知られざる活版印刷の世界」を実施。

◇対象：年齢制限なし。子どもから高齢者まで幅広い層が参加。

3. 成果と今後の展望

参加者に活版印刷の魅力を伝えるとともに、長崎が近代活版印刷発祥の地であることへの理解を深める有意義な機会となった。今後も、本木昌造先生の功績を伝える啓蒙活動の一環として、より多くの市民が参加できる体験型イベントの継続開催を行いたい。



本気の製本やっています。

PUR製本 稼動中!!

ページが開きやすい

高温でも壊れにくい

耐久性が高い

幅広い素材に対応可能

業務内容を記載しておりますが、当社にはあたためている製本アイデア等、たくさんございます。クライアント様のニーズに合わせた製本を御提案致します。まずは、お気軽にご相談下さい。

Shinohara Book Binding co., Ltd



事業内容

上製本	全般(各種出版物、町史、自分史 等)
並製本	糸かがり、アジロ綴じ、無線綴じ、平綴じ 等
その他	和綴じ、卒業証書ホルダー、メニューカバー

篠原製本株式会社

〒811-2221 福岡市糟屋郡須恵町大字旅石60-22

TEL / 092-692-8738 FAX / 092-692-8739

E-Mail / info@shinohara-bb.com

URL / http://www.shinohara-bb.com/

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フイルム ビジネス イノベーション株式会社

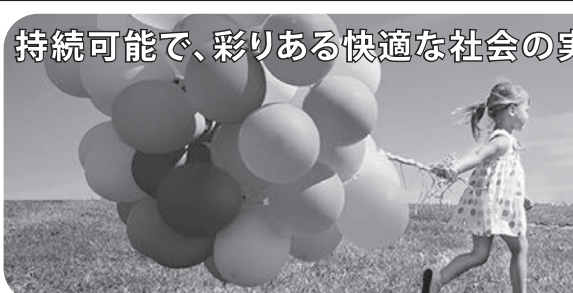
富士フイルム ビジネス イノベーションジャパン株式会社

長崎支社

〒850-0033 長崎県長崎市万才町3-5 朝日生命長崎ビル

fujifilm.com/fb/company/fbj

持続可能で、彩りある快適な社会の実現のために。



DIC

Color & Comfort

DICグラフィックスは国連が定めた
17の持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向け、
事業・製品・CSR活動など様々な側面から
取り組みを推進しています。

DICグラフィックス株式会社

〒103-8233 東京都中央区日本橋三丁目7番20号ディー・アイ・シービル
<http://www.dic-graphics.co.jp/>

情報をデザインする
紙製品のトータルサプライヤー

KING

CORPORATION

名刺用紙
私製ハガキ
招待状カード
各種封筒
婚礼用席順カード・席札
カレンダー

賞状・株券
のし紙・荷札
領収書用紙
各種メニュー
辞令用紙

株式会社 キングコーポレーション 福岡支店

〒813-0062 福岡市東区松島3丁目18番14号

TEL (092) 612-3861 FAX (092) 612-3862

Morisawa Fonts

文字とつながる。世界がひろがる。

フォントの新しい
サブスクリプションサービス

- ▶ 豊富な書体ライブラリー
- ▶ 複数デバイスでの利用
- ▶ 簡単なフォントインストール

創業明治7年、おかげさまで**152年** 和洋紙・文具・事務機・オフィス家具・園芸資材・総合卸業

株式会社 永池

長崎支社 〒851-0134 長崎市田中町1235-2 長崎卸センター内 TEL 095(837)8123
FAX 095(837)8136
本社 〒849-0916 佐賀市高木瀬町大字東高木262-1 TEL 0952(31)1151(代)

SLIM&STRONG その先へ



印刷機材の総合商社

株式会社

光文堂

福岡支店

〒812-0063 福岡県福岡市東区原田3-3-32
TEL(092)624-1811 FAX(092)624-1812

<http://www.kobundo.co.jp>

KOBUNDO
<http://www.kobundo.co.jp>



〒850-0875 長崎市栄町4-20

(資)井上勲紙店

TEL (095) 826-8155・FAX (095) 823-3372

最適なインキをご提案いたします。

BEST ONE

KIRÉINA

油性枚葉印刷 革新的なパウダーレスインキ

BEST CURE

UV CORE

UV枚葉印刷 先進的技術のUVインキ

T&K TOKA

株式会社 T&K TOKA

www.tk-toka.co.jp

本社 埼玉県入間郡三芳町竹園沢283-1 〒354-8577 TEL 049-255-1811(代表)
福岡支店 福岡県糟屋郡志免町別府北1-5-25 〒811-2233 TEL 082-611-1132(代表)



児島洋紙株式会社

本社 〒810-8731 福岡市博多区中洲中島町2番1号
電話 092(291)1331 FAX 092(271)2638
北九州営業所 〒803-0802 北九州市小倉北区東港1丁目1番4号
電話 093(581)5331 FAX 093(571)5417
長崎営業所 〒851-0134 長崎市田中町582の1
電話 095(837)8041 FAX 095(830)2291
鹿児島営業所 〒819-0123 鹿児島市卸本町7番19号
電話 099(266)6341 FAX 099(266)6371
東京事業部 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4丁目2番6号第二扇屋ビル5階
電話 03(3459)6623 FAX 03(3459)6624